

施策評価シート（評価対象年度：令和元年度）

1. 基本的事項

①施策名〔施策小〕	1 漁業振興の促進	②施策番号	3433
③まちづくりの方向〔政策(章)〕	3 産業の活力が増し、賑わいと交流が生まれるまち		
④基本施策〔施策大(節)〕	1 大地と海からの恵みとしておいしく安全な食料を供給し続けるとともに、魅力的な農業と漁業のあるまちをめざします		
⑤基本的方向〔施策中〕	2 漁業の振興		
⑥担当部名	⑦担当課名		
市民生活環境部	産業観光課		

2. 施策の現状把握

〔1〕施策の対象・意図

①施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	漁業関係者、漁業協同組合などの関係団体
②意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	漁業関係者、漁業協同組合など関係団体とより連携を図り、つくり育てる漁場づくりや地産地消、都市型漁業を推進し、漁業振興を促進する。
③環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	大阪湾の漁業生産力を有効に活用した生産性の高い都市型漁業を育成するため、生産基盤の整備や資源管理型漁業が積極的に推進されている。

〔2〕施策指標及び推移

施策指標(成果指標)		単位	指標とした理由・考え方	
①	漁業協同組合員数	人	岡田浦・樽井漁業協同組合員数により漁業振興の進展が一定わかるため。	
	計算式			
②	養殖アナゴの養殖数	匹	産官学連携まち・海・里山活性化推進事業(水産振興)による養殖アナゴの養殖数によりつくり育てる漁場づくりの進展が一定わかるため。	
	計算式			
③	年間の地曳網・釣堀来客数		岡田・樽井漁港で行われている地曳網・釣堀への来客数により都市型漁業(観光漁業)の進展が一定わかるため。	
	計算式			

	指標名	単位		H29実績	H30実績	R元実績	R2見込	R3目標	備考
①	漁業協同組合員数	人	目標値					123	
			実績値	120	122	122	122	—	
			達成率						
②	養殖アナゴの養殖数	匹	目標値				15,000	30,000	
			実績値	5,000	7,000	10,000	—	—	
			達成率						
③	年間の地曳網・釣堀来客数	人	目標値				21,303	23,000	
			実績値	18,083	15,747	19,764	—	—	
			達成率						

〔3〕施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標					総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化
		指標名	単位	H30実績	R元実績	R2見込	H30実績	R元実績	R2見込	総合評価	今後の方針	
1	産官学まち・海・里山活性化及び創生事業(水産振興)	養殖アナゴの養殖数	匹	7,000	10,000	15,000	12,825	11,221	12,242	A	ウ	◎
2	漁港維持管理事業	年間利用者数	人	10,612	13,461	15,000	2,142	2,472	2,550	A	ア	○
3	水産振興事業	組合員数	人	122	122	122	1,954	1,637	1,757	A	ア	
4												
5												
6												
7												
8												
計	3						16,921	15,330	16,549			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	漁業協同組合など関係団体とより連携を図り、つくり育てる漁場づくりや地産地消、都市型漁業(観光漁業)を推進することは、漁業が盛んになることにつながり、上位施策である漁業の振興に貢献する。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	漁業協同組合員の人数/地曳網・釣堀への来客数は横ばい状態であるが、養殖アナゴの養殖数は増えており、一定つくり育てる漁場づくり、都市型漁業(観光漁業)の進展具合が読み取れる。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	漁業関係者、漁業協同組合などの関係団体と連携しながら、役割分担を行っており適切である。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	事務事業の内容は施策に適応しており、適正である。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	本市のつくり育てる漁場づくりや地産地消、都市型漁業(観光漁業)による漁業振興の促進を図っていくために、これらの事業は重点化すべきと考える。

4. 一次評価(所管課評価)

一次評価	評価(A～D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	漁業後継者不足、漁獲量の減少。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	つくり育てる漁場づくりにつながる、産官学まち・海・里山活性化推進事業(水産振興)による泉南アナゴの養殖事業が確立されるよう、取組み主体である関係団体が自立できるよう支援を行う。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	りんくう公園運営者、両漁業協同組合と連携し、地曳網・釣堀などの都市型漁業(観光漁業)を進めることにより、漁業振興を図る。
中長期的対応 (3～5年をめどに取り組む改善案)	—

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

二次評価	評価(A～D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	育てる漁場づくりへの取組開始により、施策達成に向けた事業展開が適切に行われている。 引き続き関係団体等と連携し、事業の確立・定着へ向けた取組を進められたい。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある